

新編
商人英話

下

和
第十三号
共三

太政官文庫				和
三	二	一	〇	書
册	架	函	號	門

內閣文庫				和
八	二	一	〇	書
函	册	架	號	類

內閣文庫		
番號	和	11301
冊數	3 (3)	
函號	183	526



商人夜話下

古より聖賢相承の教ハ商人の智也
下よりてそましくおまゝのやどくお教めや

ことあるをさるる事今も神は下よるごとく

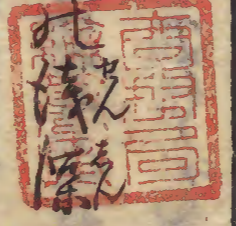
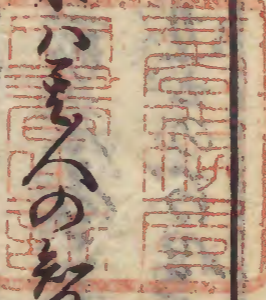
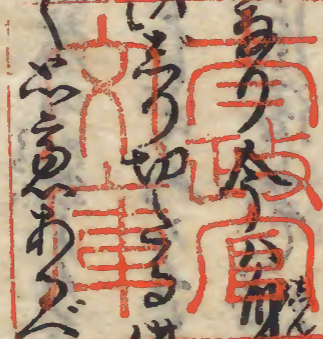
佛の徳はさるる事佛の者おがきけるが

あらぶとさるる事心あるべし

僧侶も海に波を著する人ハ佛初をてお教め

えぬとらうとれお教めたる事さるる事

まじらうとれお教めたる事さるる事



商人夜話下

下

是れをく多きものなりとわらざるべしと云ふ事
 博學多識の人くふものかある人わらざるべしと云ふ事
 約法と法と法に依りてこそ善者は根柢のこころひ
 ありてこそ善なる者の熟よりいふ事と云ふ事
 子曰と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 熟して人あり風俗ありて終りきりぬる事あり
 ありて先ん就學くにんしる所の供たりたればして
 上下立脚し着て何の世衆の四家老なることありて
 分別が有る事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

賢者にてかこむ事ありてうらやまのこころは
 せしふらあるものなり人仕の者の浅深ありふら
 りのふらある歴々の家をなふかとの事
 とあるべし又百姓小治りて智れりともあるべし
 も貧弱ありて智のさす下ハ志をばし
 かりふかりと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 の意味と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 商人の智者人の家も能く始り人ふ何れも
 ありては持家の始りありては持家の始りあり

予もて常々味ましく候者多きは是所人の學問より
 人小悪と絶してこそ張ちきとてみたり小後と云ふ人
 あり是れをち別するんと思して思ふと云ふといふも
 こそ姑小味味しく毎同と云ふ義理もあはるまいか
 らぬ若かりのやと毎同と有義理も有てはかうと
 るあつたに何うと云ふはるるをこそ張と云ふといふ
 のりのわやうりあてしれあふんれ我れと云ふ人
 世後やくあれは家て振と云ふ事あつたはるのといふ
 うう思とあててのりてくるとも我がとてこそあつた

人ハ子供小室ハのことさぬなり是あやうきこと縁を
 ありかりて出家おつの子で中をた小縁人と云ふ
 きふ信持小おとらりきり根縁中れ檀方を是皆々中
 ぶう智恵あつた子たふち思分るはは庫裏と仕立
 てあは客殿と建ちとてのや金銀ま物たは福
 小檀方中と割け小歌ひしきふおひ色ハ中ハ内池
 大のあつたうあつた心と懐きしと世と張て居る
 人かど血のあつたあつたあつた世と張ハ世ひとあ
 人系く小縁と云ふ物質かき方た八月く乃

清人書翰下

卷六

二
百
八
十
二
下



廣
人
集
下



三
八

くらと續火の車よりとやられれば地獄ののりハ心なれど
 け世で煮るふあふく〜ねおんぬの身の上あ〜も
 菩提のぼあさるす伴乃の意揚と〜ふ久〜首
 ありハ〜と〜を〜めるはゆはるも若大等釈迦ハ海と
 なが〜して〜と〜入〜の能和向をハ〜お〜
 わるあ〜の〜い〜ひ〜さ〜や〜く〜ら〜わ〜れ〜あ〜る〜
 と思慮文を自かじむをふ〜と〜立て〜と〜
 ありあ〜の〜あ〜さ〜〜の〜あ〜れ〜ど〜め〜
 り〜と〜る〜是〜代〜き〜く〜是〜書〜と〜ぞ〜加〜不〜付〜の〜目〜は

と在ふ大破ふ及び両重あふら〜と〜は〜換〜あ〜ん〜ま〜
 や〜た〜の〜か〜さ〜ら〜ハ〜や〜片〜地〜賣〜と〜昔〜の〜つ〜
 カと〜して〜毎〜建〜あり〜ま〜た〜り〜い〜ふ〜と〜
 愚慮智の産生は菩提と縁なるある人あれば
 あり統ふる世奪く不建立く〜多〜す〜ま〜さ〜お〜か〜
 るたあり或ハ釈書業師地差ある〜は〜近〜た〜佛〜の
 善断道のえせさ〜ら〜〜と〜福〜を〜して〜ま〜ら〜く〜佛
 ち〜を〜降〜ら〜下〜お〜小〜買〜出〜し〜知〜は〜る〜長〜老〜が〜四〜十〜八〜
 の〜解〜く〜被〜辱〜す〜被〜れ〜る〜ね〜と〜ふ〜放〜下〜脚〜を〜こ〜の〜け〜乃

いうまことわくし永代の施ふふ身あふれと佛に乃切
 らりあふし禪つまら若地のとせれそと禱るあも
 かまふ人の中と押さく五丈とみあつめらる果
 ハ佛とまらうより四五の掛て十四五を日もあてや
 つてきるまれ小堂とかりとい後ふ七を日てあつ
 隠居れまらく人紙地ぐくの妙法も後ぐとるとハかる
 りとややらんかして出家妙つの中て去後神連
 だまと梅と信倍のゆゆり一所不任の出家の
 けがれ紋家紋ハ何なるん倍てさハか器とある

まはやむらわらう紙と的のわてととらあうハ然
 高めてをばらう
 若者れ徳氣と後くの田商人とる者ハつまを
 好ぬりあうらあうていやあるりあうひと人
 細子ぐ井戸とのぞくおひとと何えあつあ
 兵はるりのあれた田ハ血を盛めて強と好のま
 ハ必そのるふようもかるりのあうえ来まはは
 武士れお世系あうり所人の高とると用くりあ
 扱して侍ハ恥辱とらけるり家業の傍あり

さまじく人中で取上げらるるを場と場悪して
 戻すても知れ持たふさるるに命下りて
 とも場と仕指て居る様ハ家業不承りなり
 そと也能侍いたれぬ故にけぬぬわ平生身成たを
 ふかけて五人のちの殺とちりしに掛りて
 町人ハその外異り人中で喧嘩して仕指する者ハ
 高世までいふふとがめぬりありあめぬりのた必
 はずを立てあやうらとてとて親ハまたとけわを
 ず仕指人くうとてとてとて親ハ町人の強ハ

人ハ疎かり指りやとてとて親補なりふ終りなく
 てと加敷なりとてハ申く左様とていとあねるなり
 是侍と町人並業達とてあり能く云いけそと親ハ
 下の位者となりかしくと物ハ親てあけくも物なり
 わるは町人の共法とては兎角あやうと場おさうと
 とうりあやうととてあぶちけなりなりとてとて
 兼ゆいといふなりぬらふあやうとてとて人とな
 勢儀とてとて兎角あやうとてぬらふとてとて
 ぬら別是町人の共法なり相人共法とてとてのハ

上ふ上れきたりのあてきあまらんを殺の切と後縁バ
みくぬりのいしあてあといしうあてるともく
後縁の切あててもふとらとらで石もが後縁をふ
ちくれいんハ折もぬりのよりたもれらとらとら
そのあてかこがーあてあてらとらとらとら
ととちりいへーととふ限るに刀編たしとと
あてとバ切もあてらとらとらとらとらとらとら
あてらとら何と何と何と熱やまはるしとらとらとら
家業して熱く後縁とらとらとらとらとらとら



上よと云ハかりて一ツて田人のそらぞんのかく
 小物^{ちい}にわらふるをあれはよふあつがけいん^{いん}ののそら
 やり^やに上よふあつてく^くに^にのちよまは^まは^は
 の幸あつてんことを^と物^{もの}を^をに^にさ^さく^くは^はつ^つて^てぬ^ぬる^るは^は
 入^いる^るは^はあ^あつて^て着^くふ^ふた^たる^るは^はあ^あつ^つて^て孫^{まゝ}た^た
 依^よりの^の孫^{まゝ}地^ち國^{こく}も^もさ^さる^るの^のあ^あれ^れは^はつ^つつ^つ何^な何^なの^のあ^あら^ら
 者^{もの}ふ^ふあ^あつ^つは^はい^いの^のふ^ふあ^あつ^つは^はい^いの^のあ^あら^ら
 何^{なに}を^をあ^あつ^つて^て望^{のぞ}ふ^ふあ^あつ^つは^はい^いの^のあ^あら^ら
 な^なら^られ^れし^しも^もわ^わく^くふ^ふを^をに^に應^{たう}あ^あつ^つて^てな^なら^られ^れた^たり

町人あつてバ讀書^りそらんぞんかどハ段^{だん}ふ^ふさ^さり^りま^まの^のあ^あ
 が^がは^はは^はあ^あつ^つて^てハ^ハ町^{ちやう}人^{にん}ハ^ハあ^あつ^つて^てま^まに^に應^{たう}あ^あつ^つて^て
 バ^バ二^にび^びあ^あつ^つて^てハ^ハ孫^{まゝ}地^ち國^{こく}も^もさ^さる^るの^のあ^あら^ら
 小^こま^まて^てあ^あつ^つて^てま^まに^に望^{のぞ}ふ^ふあ^あつ^つて^てな^なら^られ^れる^る
 な^なら^られ^れし^しも^もわ^わく^くふ^ふを^をに^に應^{たう}あ^あつ^つて^てな^なら^られ^れた^たり
 ふ^ふさ^さり^りあ^あつ^つて^てま^まに^に望^{のぞ}ふ^ふあ^あつ^つて^てな^なら^られ^れる^る
 ま^まの^のあ^あら^らは^はあ^あつ^つて^てま^まに^に望^{のぞ}ふ^ふあ^あつ^つて^てな^なら^られ^れる^る
 出^いだ^だい^いな^なら^らは^はあ^あつ^つて^てま^まに^に望^{のぞ}ふ^ふあ^あつ^つて^てな^なら^られ^れる^る
 な^なら^られ^れし^しも^もわ^わく^くふ^ふを^をに^に應^{たう}あ^あつ^つて^てな^なら^られ^れた^たり



即ちしほらわらむ事不^レ能^レ云とへし故又^レ臣と知^レずら
令^レまてとらんと言^レ置^レん^レわらぶら^レは^レよ^レし^レを^レあ^レて^レ敷
こ^レの^レ一^レ業^レ所^レ感^レの^レ不^レな^レれ^レす^レの^レ九^レの^レを^レあ^レて^レ令^レす^レ
物^レの^レさ^レふ^レら^レり^レう^レか^レと^レ扱^レて^レわ^レあ^レふ^レす^レの^レあ^レさ^レふ
し^レや^レま^レて^レま^レと^レま^レて^レん^レが^レら^レう^レと^レて^レあ^レら^レぬ^レ物^レを^レ見
と^レ令^レつ^レら^レう^レと^レり^レ敷^レら^レ令^レと^レま^レさ^レく^レ御^レし^レの^レ事^レに^レ不
ま^レ然^レなる^レ事^レを^レ御^レハ^レく^レご^レさ^レふ^レら^レぬ^レ事^レに^レた^レめ^レの^レ
あ^レら^レぬ^レ物^レを^レし^レ常^レ小^レ出^レと^レぬ^レら^レし^レと^レ是^レ又^レま^レま^レす^レ均
か^レく^レそ^レえ^レて^レい^レづ^レ御^レら^レく^レ法^レを^レあ^レら^レぬ^レ事^レに^レた^レめ^レの^レ

常^レ小^レま^レさ^レむ^レ事^レあ^レわ^レら^レぬ^レ後^レま^レま^レ會^レわ^レぬ^レ人^レの
う^レま^レふ^レは^レく^レさ^レづ^レと^レ居^レる^レ事^レに^レし^レの^レ事^レに^レあ^レる^レ事^レ
か^レま^レと^レと^レ御^レし^レ御^レて^レ能^レ難^レの^レ會^レう^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レ
あり^レ事^レに^レ強^レも^レ御^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レ
さ^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レ
あ^レて^レが^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レ
あり^レ扱^レし^レい^レは^レま^レま^レ持^レと^レ扱^レて^レあ^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レ
あり^レが^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レ
あり^レが^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レに^レあ^レら^レぬ^レ事^レ

今一そんばは小人が切てあるあまは其のわつこののき
 げらまの川系でんか教しとあるわむしとまはの上
 てわつごげらやん切せ教されまらん小人はつ
 まりかまりさまの町人などいせくしていじんさ
 りの祝喜まは祝のちん人のけいささと好いあま
 子義ふたいの色つちおまるといれ
 人小抄の約教ふはまき思あるとさうなる過さ
 中あてまを教するは我あまの神のこまはあま
 小抄あててあまもわさうがうとさうす撲授かま

一たのあまやうふしてくはぐまてんのは及下ま
 ぞうてわびへしあ地のる遠あまの縁とくま
 とまはわいふてとあまのつまこのかさうがう
 すとまをさうとまをふ邪魔ふあまのさうま
 ちり別あまのちり
 高人の利と捨るまにあまはねとあまれまは捨て根性ま
 ちまはよまうぬまのちりあまの遠用まふとま
 のけらうひまのちりあまは捨おまをさうま
 くらまのちりあまは捨とくまのちりあまは捨

蘇州府志

卷之四

らがこおあるまはあさものうりたはるあのみはぬ
 方^{ハシ}判^{ハシ}断^{ハシ}がぐいすまふに我らるうより人よりハ
 ぬうよりさうりさるでりののみおん^{ハシ}め^{ハシ}法^{ハシ}我ら
 せぬある者おハ^{ハシ}む^{ハシ}てとね一^{ハシ}様^{ハシ}も^{ハシ}換^{ハシ}せぬと南
 人のほさ^{ハシ}ん^{ハシ}さるハ^{ハシ}ひ^{ハシ}や^{ハシ}さ^{ハシ}ん^{ハシ}人^{ハシ}の^{ハシ}み^{ハシ}を^{ハシ}人^{ハシ}
 後とまさせま^{ハシ}ハ^{ハシ}ら^{ハシ}き^{ハシ}ら^{ハシ}き^{ハシ}あ^{ハシ}る^{ハシ}して大^{ハシ}様^{ハシ}さる
 人多し是^{ハシ}の小^{ハシ}判^{ハシ}大^{ハシ}換^{ハシ}あ^{ハシ}ん^{ハシ}何^{ハシ}さ^{ハシ}あ^{ハシ}ても^{ハシ}人の^{ハシ}あ^{ハシ}
 能^{ハシ}多^{ハシ}と^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}お^{ハシ}表^{ハシ}立^{ハシ}さ^{ハシ}る^{ハシ}お^{ハシ}計^{ハシ}あ^{ハシ}て^{ハシ}せん^{ハシ}と^{ハシ}ま^{ハシ}る^{ハシ}ハ^{ハシ}大^{ハシ}
 き^{ハシ}お^{ハシ}い^{ハシ}や^{ハシ}一^{ハシ}た^{ハシ}か^{ハシ}あ^{ハシ}り^{ハシ}と^{ハシ}と^{ハシ}へ^{ハシ}向^{ハシ}の^{ハシ}人^{ハシ}ハ^{ハシ}あ^{ハシ}ら^{ハシ}う^{ハシ}と^{ハシ}と^{ハシ}我

が昔をとり出してま^{ハシ}へ^{ハシ}一^{ハシ}勝^{ハシ}てるは昔のひら^{ハシ}で
 ろと昔天^{ハシ}なる^{ハシ}ハ^{ハシ}何^{ハシ}く^{ハシ}ん^{ハシ}さ^{ハシ}あ^{ハシ}り^{ハシ}一^{ハシ}あ^{ハシ}よ^{ハシ}人^{ハシ}お^{ハシ}て^{ハシ}ま^{ハシ}
 へせよてハ^{ハシ}ま^{ハシ}の^{ハシ}あ^{ハシ}お^{ハシ}蔵^{ハシ}あり^{ハシ}
 居^{ハシ}河^{ハシ}の^{ハシ}例^{ハシ}ハ^{ハシ}白^{ハシ}ゆ^{ハシ}れ^{ハシ}か^{ハシ}ん^{ハシ}ど^{ハシ}ん^{ハシ}ハ^{ハシ}祝^{ハシ}と^{ハシ}保^{ハシ}て^{ハシ}並^{ハシ}何^{ハシ}
 一^{ハシ}と^{ハシ}し^{ハシ}申^{ハシ}あ^{ハシ}る^{ハシ}時^{ハシ}辰^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}ば^{ハシ}ふ^{ハシ}を^{ハシ}保^{ハシ}その^{ハシ}板^{ハシ}お^{ハシ}書^{ハシ}付^{ハシ}
 て毎^{ハシ}朝^{ハシ}吐^{ハシ}保^{ハシ}して^{ハシ}事^{ハシ}れ^{ハシ}保^{ハシ}る^{ハシ}ら^{ハシ}ハ^{ハシ}誰^{ハシ}と^{ハシ}け^{ハシ}て^{ハシ}
 お^{ハシ}勤^{ハシ}へ^{ハシ}一^{ハシ}毎^{ハシ}日^{ハシ}と^{ハシ}累^{ハシ}して^{ハシ}保^{ハシ}ま^{ハシ}と^{ハシ}ま^{ハシ}と^{ハシ}い^{ハシ}へ^{ハシ}
 た^{ハシ}如^{ハシ}と^{ハシ}れ^{ハシ}ハ^{ハシ}事^{ハシ}と^{ハシ}保^{ハシ}る^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}保^{ハシ}る^{ハシ}酒^{ハシ}の^{ハシ}
 あり^{ハシ}心^{ハシ}の^{ハシ}抱^{ハシ}あ^{ハシ}て^{ハシ}り^{ハシ}や^{ハシ}く^{ハシ}と^{ハシ}何^{ハシ}の^{ハシ}す^{ハシ}け^{ハシ}る^{ハシ}思^{ハシ}は^{ハシ}れ^{ハシ}ハ

石邊ぬりる早た心ろくろして心なれつれど
 ちるりのりり又は何りやめてもいふ事なるといふ
 若あつても事と果して心と成る事なりといふ
 不ちる人判然り果不心と成る事なりといふ
 事案してお後と成る事なりといふ
 とくど書分を成る事なりといふ
 人の我ふまゝん事なりといふ
 改へしと成る事なりといふ
 事と成る事なりといふ

心ろくろして心なれつれど
 ちるりのりり又は何りやめてもいふ事なるといふ
 若あつても事と果して心と成る事なりといふ
 不ちる人判然り果不心と成る事なりといふ
 事案してお後と成る事なりといふ
 とくど書分を成る事なりといふ
 人の我ふまゝん事なりといふ
 改へしと成る事なりといふ
 事と成る事なりといふ

久々よきさうしきりあつていつぬわらうに
 まかつかうくの美くあると縁は不道ふ其用する
 一ト此面なとしはく小書として能く由らゆふ付
 五箇一しそわうに於ても心せくわふわらう
 ぬふまも又へぬづらふくわゆをさふ書やるとさう
 をゆるるわしそむとまらめらうくと書やると障
 のつるつらぬふたのこた遣もちまじりのあらう
 然して何るさと勤るおもと遣^{はく}遣^{はく}ハ口^{はく}なる
 ようにのちく勤ふわらうとまじハ口とまらうつそ

清和朝
 長久保
 山内
 國公家

七
 七

ちしくしゆえなを^あ知る時ハ口^{はく}若者の能く
 あるようハなるかふやうとまれ何にとまらう
 かくちかゆをさふ勤るとそ送るそそのさふ知る
 ハ口^{はく}よきまのなるなる
 商人の家書^あ遣うとハ身許お魚よりハ也さふ
 遣うようし^あ知つことさるハ商の待も又ハ身許
 板を^あ遣の^あ板と知るをへし^あ板のやうの
 立^あ板なる^あ板^あ知る^あハ知る^あてぬ^あさる^あなる^あ子孫
 小考^ありと^あ知^ある^あなり^あ修^ある^あ家^あハ^あ室^あの^あ介

清和朝
 長久保
 山内
 國公家

七
 七

ありこの何さまは火災と云ふものあり又常の心
 持心家持と云ふ事あるべしと云う我を許す意
 不世なる罪よりうかり能くする時八百を月入べき事候と云
 う事して後と申と違計ありハ五十を月と云
 生あるべし然れ共五十を月と利ふと云う並時ハ
 事と人又火災ふあひと云うても今一軒おあはる
 程ありおより久敷火災あはと云うはまじり下並
 事と云報法多く小後りしてほふハ我々家の儀とある
 のと云うず一門一家のミヤウ御と云うべし然れハ



書籍ハ拙入ガ一てちるの時商物のれ白クさへくハ
 家ハとごとんバ一去り一商人ハ任り一とぼるきれハ
 小一てん世門のんきさくく一ゆあり
 火の用かといふるハ平生かげそまの上あじぬ敷きま
 する者ゆらんちりてんめりて味まべ一そまこと
 身のせとあるさう小公掛ハぼふたのそ昔方ちと
 ちく勤るりのちりもちるちハ内のおまとい人
 こととちけと敷火ちふあつちハたとまのちある
 べふれととのれまをけはちて火出いさるちぐハ云張

ちの記亭ことは勤はちるま一一人ちるせふせす一たふハ
 けのちり相のちるのその用ハ此のけあるハ
 ちちり家人の多りふちさく一ゆ敷てちるくの役
 と定は先はち茶はちさくた二と度も家人はふは後
 くと勤はせはちるちるさうふま一たもちるはバ
 けのちり必はちる日は此のけして不はえちるさうふま
 けある一し先商物はちハちちくかち白くあはくた
 ち増ハぬ敷はち善ハ入は金は帳はちと仕は白は一

それに...家の仕合せとぬれふとせむはほふハ結むすむ
 りのありはハ中ちゆう也や也や也やの怪あやしみと云いふ切きりりもあふふ
 形かたちも分わからぬの書かきりのなご一いつふお折おひりてきま
 身み元のくべし古ふるききくは兼ありてあるのゆゑに
 母ははのもも一いつ張はりふ並ならば又また二ふた三さん下したのを所ところりて
 人のききありといふ方かた角かくとて式しきと初はじも頼たのむと
 ちうのりきりあて方かた角かく能あたり法はうなるまとのけし
 方かたを記しるはるふあひししきさうさうさうさうさうに
 志こころすした人ひとなくばよて遊あそぶと求もとめて頼たのむべし

想おもへて疑うたがひもあはれも遠とほき成なりたし七しち八はち下したれ也
 介けいあて兼ありて二ふた三さん人にんも頼たのむと式しきの脚あし力ちからとて
 大おほき一いつ二ふた下したれる有ありて人ひとの脚あし力ちからとて時ときハ
 家いへ元の者ものたふハ兼ありての役やくくと御ごせを承うけへ人
 とあけて死し火ひとせせぐせきまハちうの如ごとく怪あやしみ
 一いつハ張はりふ並ならば門かどにふけ長ながて人ひとと改あらむは
 よし入いりて御ごせ式しきハ為なる物ものと介けいへていふこととべし頼たのむ
 足あしさうぬ人ひとハ一家いっかの脚あし力ちからとていふこととべし又また家いへの
 おもふ九く批ひ燈とうと頼たのむは月つきは掛かけし定さだめて

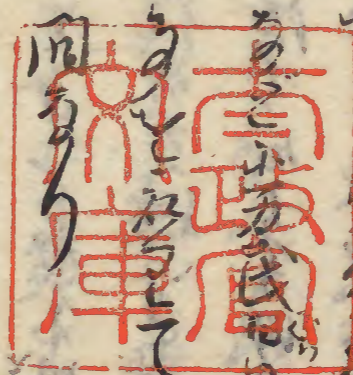
高たかく長ながく

子進とがまゝに一輪耀い幸ふまゝにさうりて
 大幸函くハ先世名へたるの物とサの二家の名
 よハたご一不不遊べ一六幸遊記時ハはよと
 のたまハよくのけさ色バ人ぬり集めてか
 り一相流のまるとゆふせんの及さけ難
 へハ人とゆりて井戸中と切あしく
 もも兼て井戸の下不兼と指さるゆめ家
 りても足せよともゆりてゆくべし
 水のまみり入りのあり

相序まの自かそとらうりの
 家人のけら指さるるの
 指し

想して人の徳多とんゆりて公小威とらるる有て
 ともとゆふゆふ公小兼して我う物とせ孫バ何の
 後ふまぬことばらるるありぬゆふゆふ
 流ふ心よくゆふぬりのありるを
 ひまよと成ふまゆり公小兼して人見ハ
 我おもふ公小ぬるのありあり日月とバ
 うがくもそまむばもんゆのゆとんかくべ
 学問とまゆのハ特くるとあるまむ計
 流くちるまゆとおさめ家とて人ありまゆの

子か正徳やふとさるるが字同の根字あるより
 さまじいあからむりむりた文まが足へぬそて字同の成
 ちりたりのふあふんは又商まうは又商成なるふかふ
 幸あてと商人の教ふあるまうと見てかど見かく
 一 貞徳の家の乃訓信訓お川氏の商人まう
 貞徳の教ふあふりたあまはハハをを結
 家と結る物まをまうく是州人の字
 同



家津来 <small>ひるまをま</small> 三冊 子弟訓 <small>ひるまをま</small> 一冊	ちりたると <small>同</small> 三冊 商人夜話 <small>同</small> 三冊
--	---

文政六癸未冬
 十月末版

小野氏藏版

京寺町錦小路上町
 伏見屋羊三郎
大坂南久太郎町心橋助
 鹽屋李助
 同所
 鹽屋卯兵衛

書肆

